生活

松田　隆之
菊池　勇希
小原　広士

学習対象や他者との関わりを繰り返し，自分にとって「大切な存在」を探究する生活科の学習

Ⅰ　生活科研究の方向性

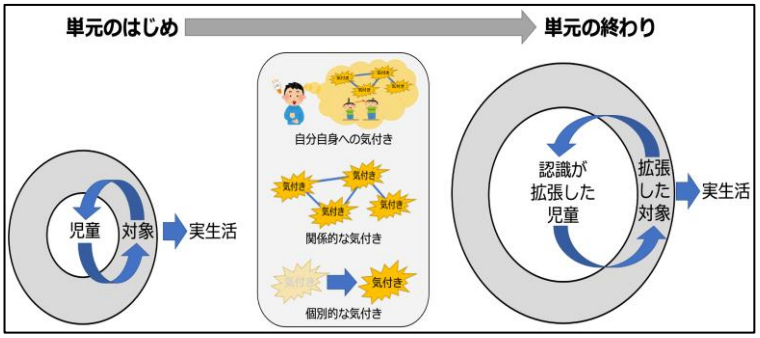
1　主題設定の理由

『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　生活編（以下，解説）』では，生活科における「深い学び」について，次のように述べられています。

> 自分自身や自分の生活について考え，表現することにより，気付きの質が高まり，対象が意味付けられたり価値付けられたりするならば，身近な人々，社会及び自然は自分にとって一層大切な存在になってくる。このような「深い学び」の実現こそが求められるのである。(p.15，傍点筆者)

これまでの本校の研究では，「気付きの質の高まり」に着目し，児童の思いや願いを大切にした単元構成や，気付きの想定表を活用した指導と評価の工夫について研究を進めてきました。その結果，児童が思いや願いの実現に向かって主体的に学習に取り組んだり、教師の働き掛けを通して気付きの質を高めたりする姿が見られました。一方で，児童一人一人の取組に着目すると，対象との関わりが授業内に閉じてしまう姿や十分に対象への興味や愛着を高めきれていない姿が見られ、解説が求める「大切な存在」になりきれていないと感じる場面が見られました。

そこで，本研究では，対象が児童にとって「大切な存在」となることに着目して研究を進めました。児童が対象を「大切な存在」にしていくためには，思いや願いをもって対象と繰り返し関わったり、他者と対話したりすることで，気付きの質を高めながら，対象の意味や価値を捉え直し，対象への認識を拡張していくことが必要です。



【生活科における対象への認識の拡張イメージ】

以上のことを踏まえ，本研究では「学習対象や他者との関わりを繰り返し，自分にとって『大切な存在』を探究する生活科の学習」を主題としました。対象と自分、自分と他者といった関わりを繰り返す中で、対象が自分にとっての「大切な存在」になるとともに，「大切な存在」となった対象を基に，自らの生活をよりよいものにしようと探究する児童の姿を目指します。

2　目指す「新たな価値を創り出す」児童の姿

生活科における「子供が創り出す『価値』」を以下のように押さえました。

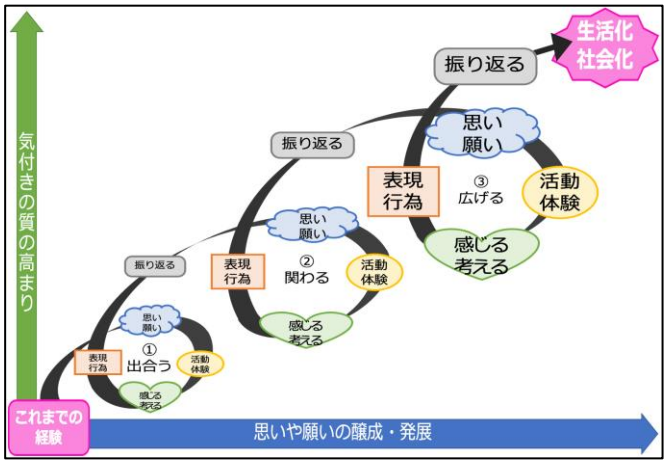
①自ら問いをもって，探究することの価値	対象である「人・もの・こと」と思いや願いをもって関わることで，対象や自分自身への気付きを得る。
②人と関わり，協働して探究することの価値	思いや願いの実現のために，互いの気付きやよさを生かすことの大切さを実感する。
③探究する中で得た内容知や方法知の価値	対象が「大切な存在」になったり，他者と学ぶよさを実感したりすることで，実生活をより豊かなものにしていこうとする。

Ⅱ　研究内容の具体

１　「探究型の学び」のイメージ

解説に示された生活科の学習過程「①思いや願いをもつ」「②活動や体験をする」「③感じる・考える」「④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）」をベースに，本校生活科における「探究型の学び」を右のように整理しました。

教師は，児童のこれまでの経験に基づき，学習のきっかけとなる対象との出合いの場を構成し，児童にとって学習の原動力となる思いや願いの醸成に努めました。そして，児童が思いや願いの実現に向かって対象と関わったり，そこで得た気付きを表現したりすることができるよう，必要な活動や環境を構成しました。そうすることで，学習過程を連続的・発展的に繰り返しながら、自らの生活をよりよくしていくことを目指しました。



２　「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

中央教育審議会（2021）は，「『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し，『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくこと（p. 19）」が必要であることを示しています。

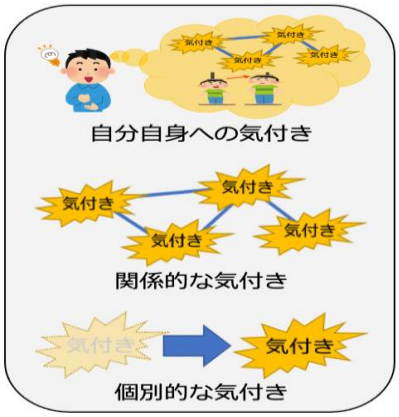
そこで，本校生活科では，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を下のように整理し，それらを一体的に充実させるための授業デザインについて研究を進めました。

◆生活科における「個別最適な学び」 思いや願いをもって対象と関わったり，そこで得た気付きを表現したりする中で，一人一人の興味や特性などの多様性を生かすこと。
◆生活科における「協働的な学び」 思いや願いの実現に向かって，他者と関わり合いながら活動や体験を行ったり，互いの気付きやよさを共有したりすること。

≪気付きの姿の具体化とその活用≫

田村（2018）は，「主体的・対話的で深い学び」の実現のために，教師の「捉える」「解釈する」「適合する」「判断する」「振る舞う」といった力が重要だとしています。また、生活科は，児童の興味や特性などによって，多様な活動が行われる特徴があることから，指導及び見取りに難しさがあります。

そこで，児童の気付きの質の高まりの姿やそこで必要となる思考を「気付きの想定表」として具体化し，実践を行いました。その際，「気付きの想定表」を児童の多様な学びを見取る（捉える・解釈する・適合する・判断する）ための指針にしたり，見取りを基にした働き掛け（振る舞う）に活用したりしました。



【気付きの質の高まりのイメージ】

○気付きの姿の具体化（気付きの想定表） ①児童の発達の段階や興味、特性などを考慮して，想定される気付きを具体化する ・個別的な気付き（無自覚だったことが自覚的になる） ・関係的な気付き（思考や表現を通して，個別的な気付きが関連付く） ・自分自身への気付き（対象との関わりを通して，自分の存在・よさ・成長を自覚する）

②気付きの質を高めるために必要な思考を明確にする

・内容毎のポイントとなる思考

内容(1)…見付ける，比べる，見通す	内容(2)…比べる，見通す，工夫する
内容(3)…見付ける，比べる，見通す	内容(4)…見付ける，比べる
内容(5)…見付ける，比べる，たとえる	内容(6)…試す，見通す，工夫する
内容(7)…見付ける，見通す，工夫する	内容(8)…比べる，たとえる，見通す
内容(9)…見付ける，比べる，たとえる	

※上記は一例であり，対象や児童の興味、特性などを考慮して設定する

○気付きの見取りを基にした具体的な働き掛け

①個別的な気付きを促す言葉掛け

a 行動の言語化　（例）何をしているのかな？　○○をしているんだね。
b 思いや願いの言語化　（例）どうして○○しているの？　この後どうしたいのかな？
c 五感を使う　（例）よく見てみるとどうかな？　触るとどんな感じかな？

②関係的な気付きを促す言葉掛け

a「見付ける」を促す　（例）どんなことが分かるかな？　何に気を付けたかな？
b「比べる」を促す　（例）前とどう変わったかな？　他の○○と同じかな？
c「たとえる」を促す　（例）何か似ているものはあるかな？　例えばどういうこと？
d「試す」を促す　（例）○○してみたら？　どうしたら確かめられるかな？
e「見通す」を促す　（例）○○したらどうなるかな？　やってみてどうだった？
f「工夫する」を促す　（例）どこを直したらよいかな？　どう生かしたらよいかな？
g 思考を価値付ける　（例）比べてみたんだね。　試してみたら発見できたんだね。

③自分自身への気付きを促す言葉掛け

a 時間軸で振り返る　（例）はじめの自分とどう変わったかな？
b 空間軸で振り返る　（例）授業以外の場面で自分が変わったことはあるかな？

④探究への意欲を引き出す言葉掛け

a 称賛や励まし　（例）いいことに気付いたね。　すごい発見をしたね。
b 捉え直し　（例）○○ということだね。　○○してみたんだね。

⑤他者との協働を促す言葉掛け

a「共通点」の指摘　（例）○○さんも同じことをしていたよ。話を聞いてみたら？
b「相違点」の指摘　（例）○○さんは別の方法でやってみたようだよ。

≪伝え合い交流する場の意図的な設定≫

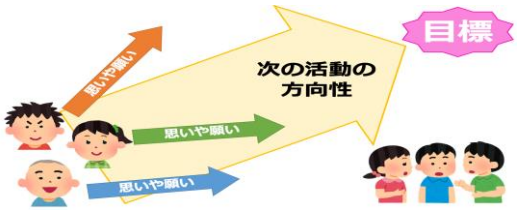
生活科では，一人一人の気付きを伝え合い交流することで，気付きがより確かなものになったり，気付きが関連付いて新たな気付きが生まれたりしていきます。そのため，伝え合い交流する場を工夫し，一人一人の気付きを全員で共有することで，個々の気付きの質を高めたり，集団として学習をより豊かなものにしたりしていくことが重要です。

そこで，体験活動での児童の思いや願い，気付きなどを生かし，どのような場面で伝え合い交流する場を設定していけばよいかについて研究を進めました。

○活動のねらいを明確にした伝え合い交流する場の設定

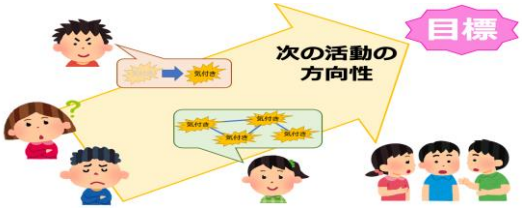
①体験活動の中で次の活動への思いや願いが生まれた場面

・児童の「～したい」という対象との新たな関わりへの思いや願いを生かし，その実現に向けて，気付きを共有する。



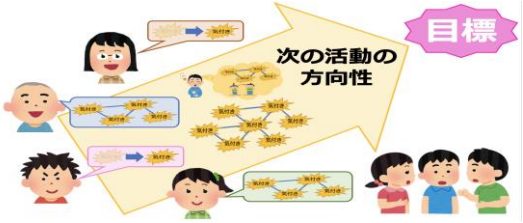
②体験活動の中で困り感や問いが生まれた場面

・対象との関わりの中で表出した「困ったこと」や「問い」を生かし，その解決に向けて，気付きを共有する。



③体験活動の中で気付きが十分に蓄積された場面

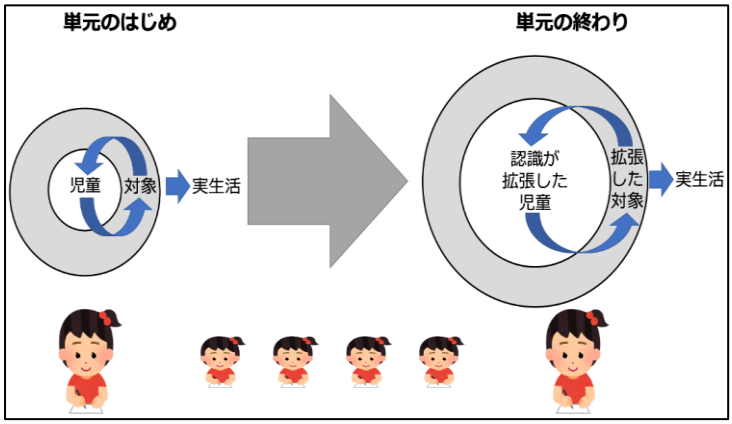
・対象との関わりの中で蓄積された気付きを「みんなに伝えたい」という思いや願いを生かし，互いの捉え方に意識を向けながら，気付きを共有する。



3　子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

生活科では，児童が対象との関わりを通して，対象を自分事として捉えたり，対象への認識を広げたりすることで，対象とのよりよい関わりを実生活へとつなげていくことが重要です。

そこで，本研究では，活動の節目に，自分と対象との関係を視覚化し，振り返る機会を設定しました。視覚化によって，対象と自分との関係性や認識の拡張を自覚し，対象が自分にとって一層「大切な存在」となることを目指しました。

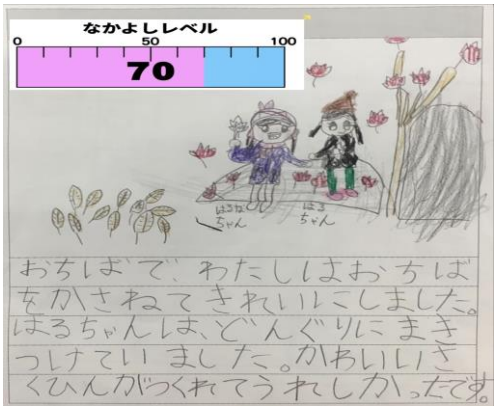


【数値化等による対象への認識の拡張イメージ】

○数値などによる自分と対象との関係の視覚化

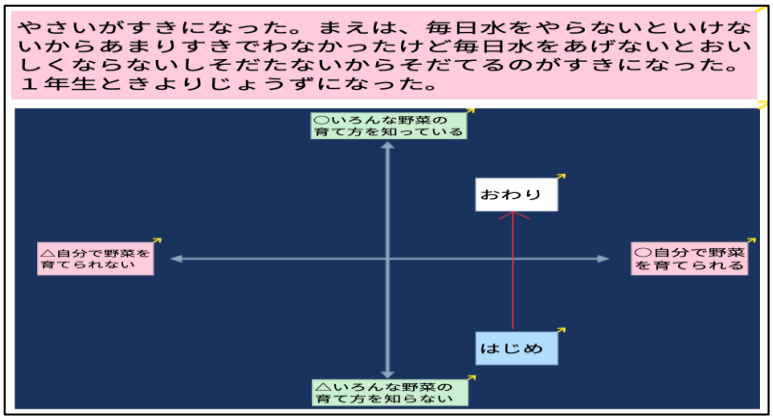
活動の節目で，自分と対象の関わりを振り返る時間を位置付けます。その際、対象との関係性を視覚化し、対象との関係性や認識の変化を自覚できるようにします。

［実践例：１年「あきとなかよし」］



【活動終了後の振り返り】

［実践例：２年「やさいづくり名人」］



【単元末での振り返り】

Ⅲ　研究実践

１年生実践　『おもいでいっぱい　せいちょうすごろく』

実践のテーマ：遊びを通して気付いた友達の成長やよさを伝え合い、
「自分」についての認識を広げる学習

１　研究授業のねらい

１年間の思い出や成長をすごろくにしたり，それを使って遊んだりする活動を通して，これまでの生活や出来事を思い浮かべたり過去と現在を比較したりしながら，自分の体や内面的な成長，できるようになったこと，役割が増えたことに気付くとともに，これまでの生活や成長を支えてくれた人に感謝の気持ちをもち，新たな成長への期待を抱く。

		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		自分の体や内面的な成長，できるようになったこと，役割が増えたことに気付いている。		これまでの生活や出来事を思い浮かべたり，過去と現在を比較したりしている。	これまでの生活や成長を支えてくれた人に感謝の気持ちをもち，新たな成長への期待を抱いている。
小単元における評価規準	1	①大きくなったこと，できるようになったこと，役割が増えたことなどに気付いている。		①過去の自分や出来事を思い起こしたり，過去の自分と現在の自分を比べたりしながら，思い出や自分の成長を集めている。	①すごろく作りに期待感をもち，これまでの生活や出来事を進んで振り返ろうとしている。
	2		②自分自身の内面的な成長に気付いている。		②友達の気付きや考えのよさを生かし，自分自身を捉え直そうとしている。
	3	③自分自身のよさや可能性に気付いている。			③生活や成長を支えてくれた人に感謝の気持ちをもち，新たな成長への期待を抱いている。

２　単元の指導計画（11 時間扱い）

小単元名	時	学習活動	評価規準（評価方法）
1 おもいですごろくをつくろう	① ② ②	◇『おおきくなるっていうことは』（文・中川ひろたか，絵・村上康成，童心社）を基に，自分の成長をすごろくにまとめていく学習に関心をもつ。 「成長すごろく」を作って，みんなに自分の成長を伝えたいな。 ◇自分が成長したと思う出来事を出し合い，どの出来事が「成長カード」にできそうかを検討する。 いろんな出来事で僕は成長したんだな。成長カードがいっぱい書けそうだよ。	主①※第１時 （発言・振り返り） 思①※第２時 （発言・振り返り）
2 おもいですごろくをつくってあそぼう	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 本時 外	◇「成長カード」を書いて，すごろくを作り，自分の成長を振り返る。 ※内面的な成長への気付きを促すために「学習発表会（学校行事）」や「あきとなかよし（生活科）」などを取り上げて，各々の成長を共有する。 「成長すごろく」ができてきたよ。みんなと遊んでみたいな。みんなはどんな成長をしたのかな？ ◇ペアで「成長すごろく」で遊び，気付いたことや考えたことを「メッセージカード」に書き，伝え合う。 友達は学習発表会で，大きな声が出せるようにお家でも頑張ったんだ。お家でも頑張っていてすごいな。 いろいろな人と「成長すごろく」で一緒に遊んで，自分のことを伝えたいな。 ◇家族や友達などと一緒に「成長すごろく」で遊び，「メッセージカード」を書いてもらう。	思①※第３・４時 （発言・振り返り） 知①※第５時 （成長カード・発言・振り返り） 知②※第６・８時 （成長カード・発言・振り返り） 主②※第７時・課外 （発言・振り返り・行動・メッセージカード）
3 これからのせいちょうをかんがえよう	⑨ ⑩ ⑪	◇完成した「成長すごろく」，家族や友達などに書いてもらった「メッセージカード」を基に，自分自身について振り返り，これからの自分の成長へ期待をもつ。 ◇「どんな自分になりたいか」を明確にして，「成長すごろく」の続きを作って友達と遊ぶ。 「メッセージカード」を読んだら，みんなが自分の成長のことを認めてくれてうれしかったよ。これからも一生懸命頑張って，もっと成長していきたいな。	知②③※第９時 （すごろく・発言・振り返り） 主③※第 10・11 時・課外 （発言・振り返り・行動）

３　本時の学習

(1) 本時の目標

友達の気付きや考えのよさを生かし，過去の自分や出来事を思い起こしたり，過去の自分と現在の自分を比べたりする活動を通して，自分が大きくなったこと，できるようになったこと，役割が増えたこと，内面的な成長についての気付きを新たに得たり，確かなものにしたりすることができる。

(2) 本時の展開（11 時間扱いの８時間目）

学習内容と主な学習活動	研究とのかかわり・留意点
1　本時の学習内容を捉える ・今日どんな活動をしていくか考える。	**◇ねらいを明確にした表現活動の設定** **研究視点２−②** ・気付きの蓄積を生かす。
「メッセージカード」に書いたことを伝え合おう。	
2　カードの内容を全体で共有する ・メッセージカードにまとめた気付きを伝え合う。 ① 着目した友達の成長や出来事 ② 自分が思ったこと・考えたこと ・友達の成長のよさについて「〇〇で賞」という形でまとめる。	**◇見取りを基にした働き掛け**　**研究視点２−①** 【評価規準　知識・技能①②】 大きくなったこと，できるようになったこと，役割が増えたこと，内面的な成長についての気付きを新たに得たり，確かなものにしたりしている。（発言）
3　カードの内容を再度見直したり，カードを渡しに行ったりする ・全体での共有を基に，メッセージカードを作成したり，修正したりする。 ・出来上がったメッセージカードを友達に渡しに行く。	・グループのメッセージカードを優先して作成・修正し，渡しに行く。
4　次の活動への思いや願いをもつ ・それぞれの思いや願いを表出する。 「もっといろいろな人に成長すごろくをやってもらって，成長を伝えたいな。」 「お家の人にも成長すごろくをやってもらいたいな。」　など	**◇ねらいを明確にした表現活動の設定** **研究視点２−②** ・次の活動を方向付ける
5　学習を振り返る ・自分についての認識の深まりを数値として表す。 ・その数値とした理由を本時の学習やこれまでの学習と照らし合わせて記述する。 ・それぞれの振り返りを共有する。	**◇自分と対象との関わりの見える化** **研究視点３** 【評価規準　知識・技能①②】 大きくなったこと，できるようになったこと，役割が増えたこと，内面的な成長についての気付きを新たに得たり，確かなものにしたりしている。 （メッセージカード，発言，振り返り）
6　学習をまとめる	
友達にも，〇〇を頑張っていたと言われて，うれしい気持ちになったよ。 自分では〇〇とは思っていなかったけれど，友達に言われたから気付いたよ。 もっといろんな友達や家族と「成長すごろく」をしたいよ。	

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

友達との関わりを通して，自分についての認識を拡張する姿

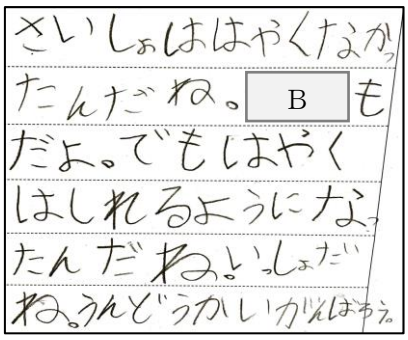
活動のねらいを明確にした伝え合い交流する場の設定

本単元では，単元のねらいや単元及び小単元における評価規準を基に，想定される児童の気付きの具体の姿を「気付きの想定表」として図１のようにまとめました。

分類		想定される児童の気付き	発揮される思考
自分自身への気付き		**＜対象と自分との関わりを振り返り，自分の存在・よさ・成長を自覚する＞【知識・技能③】** ・友達が自分の成長やよいところを教えてくれたから，新しいことに気付いたり，自信が持てたりしたよ。（存在） ・「メッセージカード」をたくさん書いて，友達の成長やよいところを伝えることができたよ。（存在・よさ） ・みんなで相談したり，協力したりすると「おもいですごろく」がもっと楽しくなったよ。（存在・成長） ・２年生になっても，○○を頑張っていきたいな。（成長） ・いろいろなことを頑張ってきたから，１年生ではたくさんの思い出ができたよ。（成長）　など	比べる 見通す （時間的・空間的に振り返る）
対象への気付き	関係的な気付き	**＜思考や表現を伴う活動を通して，個別的な気付きが関連付けられる＞** **［「内面的な成長」に関わるもの］【知識・技能②】** ・大変で途中で諦めそうになったけど，最後まで頑張ったよ。（我慢する心） ・友達のことを考えて○○することができたよ。（他者への思いやり） ・幼稚園の子供たちのために○○を頑張ったんだよ。（優しい気持ち） **［「大きくなったこと，できるようになったこと，役割が増えたこと」に関わる気付き］【知識・技能①】** ・はじめは□□だったけれど，最後は△△できたよ。（前後での頑張りの比較） ・○○を頑張ったのは，□□になりたかったからだよ。（頑張りと目指す姿のつながり） ・○○ができるようになって，□□な気持ちになったよ。（できることと気持ちのつながり） ・○○ができるようになったのは，□□したからだよ。（できることとその理由のつながり） ・○○の時，□□を頑張ったよ。（出来事とそこでの頑張りのつながり） ・○○の時，□□という気持ちになったのは，～だからだ。（気持ちとその理由のつながり） ・○○の時は，□□という気持ちになったな。（出来事と気持ちのつながり）　など	たとえる 比べる 見つける 【思・判・表①】
	個別的な気付	**＜無自覚だったことが自覚的になる＞【知識・技能①】** ・毎日，学校や家の仕事で○○を頑張っているよ。（役割の自覚） ・○○ができるよ。（できることの自覚） ・僕の身長は，○○cm だよ。（体の成長の自覚） ・○月には□□があったな。（出来事の想起）　など	比べる 見つける 【思・判・表①】
無自覚な気付き			

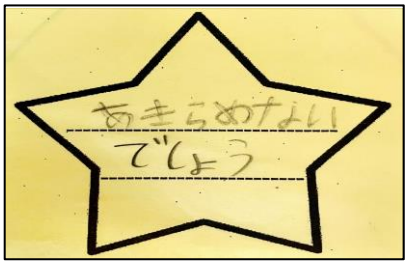
【図１　「おもいでいっぱい　せいちょうすごろく」の気付きの想定表】

本時では，児童が友達の成長すごろくで遊ぶことを通して得た「友達の成長やよさ」についての気付きを生かし，伝え合い交流する場を設定しました。そして，気付きを伝え合い交流することを通して，一人一人が自分の成長やよさを友達から認められたり，自分自身についての新たな気付きを得たりし，図１の「関係的な気付き」へと気付きの質を高めることをねらいました。



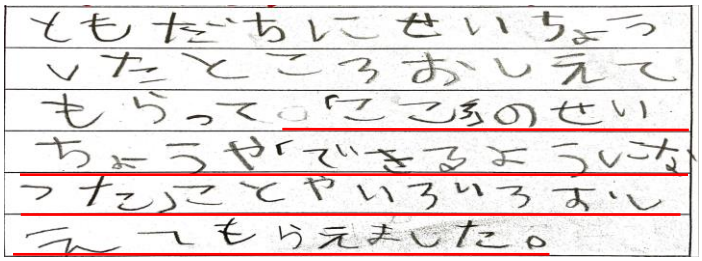
【Ｂ児が渡したカード】

Ａ児は，前時までの学習において，運動会や自然体験学習，学習発表会などの出来事の中で「自分ができるようになったこと」を中心にして「成長すごろく」を作成していました。本時の伝え合い交流する場において，同じグループの友達から運動会での成長について多く認められる機会をもつことができました。特に，Ｂ児から「最初は（足が）速くなかったんだね。（中略）でも速く走れるようになったんだね。」や，Ｃ児から家庭でも運動会に向けて努力したことを「あきらめないで賞」と認められていました。その後，本時の終末においてＡ児は，「『心の成長』や『できるようになったこと』や色々教えてもらえました」と振り返り，Ｂ児とＣ児からもらったカードを運動会のカードの近くに貼っていました。



【Ｃ児が渡したカード】

以上のことから，Ａ児は，友達と伝え合い交流する活動を通して，前時まで「成長すごろく」の中には見られなかった「内面的な成長」への気付きを新たに得たことで，気付きの質が高まったと考えました。



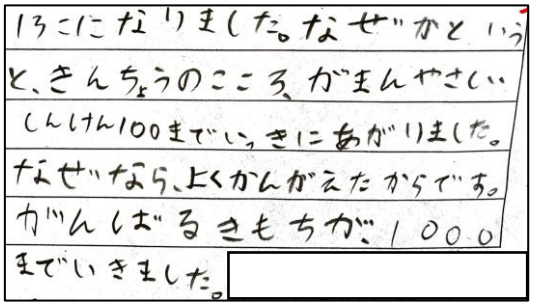
【本時のＡ児の振り返り】

子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫（自分と対象との関係の見える化）

本単元では，学習対象である「自分自身」について認識を拡張していくことができるように，活動の節目で自分自身についての認識を「自分メーター」を用いて見える化し，それを蓄積・比較して振り返る場を設定しました。

D児は，単元の振り返りにおいて「自分メーター」の変化を基に右のように振り返りました。振り返りの記述から，「緊張しても頑張る気持ち」「我慢」「優しさ」「真剣に取り組むこと」等の「内面的な成長」に気付くことで，学習以前よりも自分自身についての認識が拡張したことがうかがえます。また，「頑張る気持ちが 1000 までいきました」と記していることから，自分自身についての認識が拡張したことによって，今後の新たな成長への期待を抱くことにつながったと考えます。

【D児の「自分メーター」の変化】



【D児の単元末の振り返り】

Ⅳ　１年次研究の成果と課題

１　研究の成果

○体験活動での児童の気付きの蓄積を生かし，伝え合い交流する場を設定することで，多様な視点から気付きを捉え直すことができ，気付きの質を高めることにつながりました。

○活動の節目に，自分と対象との関係を視覚化し，それを振り返る機会を設定することで，対象の意味や価値を捉え直し，対象への認識を拡張することにつながりました。

○対象への認識の拡張を自覚することで，単元で得た気付きや対象との関係性を実生活に生かしていこうとする姿が見られました。

２　今後の課題

○個々の気付きの質を高めるだけでなく，集団としての学習をより豊かにするためには，伝え合い交流する場における目的意識や問いの在り方について明らかにする必要があります。

○自分と対象との関係の見える化においては，個々で振り返るだけでなく，友達と振り返った内容を共有するなどして，より認識の拡張につなげていけるようにする必要があります。

Ⅴ　引用・参考文献

○小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編　文部科学省　東洋館出版社　平成29年６月

○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校　生活】
文部科学省　国立教育研究所　東洋館出版社　令和２年６月

○「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～(答申)　中央教育審議会　令和３年１月

○初等教育資料No. 1025「生活科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」
齋藤博伸　文部科学省　東洋館出版社　令和４年10月

○「学ぶ」ということの意味　佐伯胖　岩波書店　平成７年４月

○小学校新学習指導要領ポイント総整理　生活　久野弘幸　東洋館出版社　平成29年９月

○深い学び　田村学　東洋館出版社　平成30年４月

○生活科・総合的学習事典　日本生活科・総合的学習教育学会　渓水社　令和２年９月